

ライチ品種「篤姫」の着果における結果母枝の実態

ライチ品種「篤姫」では、樹冠上部および赤道部の結果母枝は、発生角度が大きいほど、また長いほど着果率が高い。特に発生角度が80度以上の長い結果母枝の着果数が多い。

農業研究センター天草農業研究所 (担当者: 山添純歌)

研究のねらい

ライチは着房・着果が不安定で、着果しても翌年は強い隔年結果性を示す。しかしながら安定した着房や着果の要因についてはこれまで明らかにされていない。

そこで、比較的安定した着房・着果性を持つ「篤姫」を用い、優良結果母枝の実態を把握する。

研究の成果

1. 結果母枝の発生角度別着果率は、樹冠上部および赤道部が高く、下部が低い。また、発生角度が大きいほど着果率が高い(図1)
2. 結果母枝の長さ別着果率は、樹冠上部および赤道部が高く、下部が低い。また、長いほど着果率が高い(図2)
3. 着果数は樹冠下部で少なく、また、上部と赤道部では発生角度が80度以上の長い結果母枝で特に多い(図3)

普及上の留意点

1. 供試品種は少加温栽培・ポット植えの8年生「篤姫」で、前年着果の無かった5樹を用いた。
2. 開花期は受粉用に西洋ミツバチを放飼した。

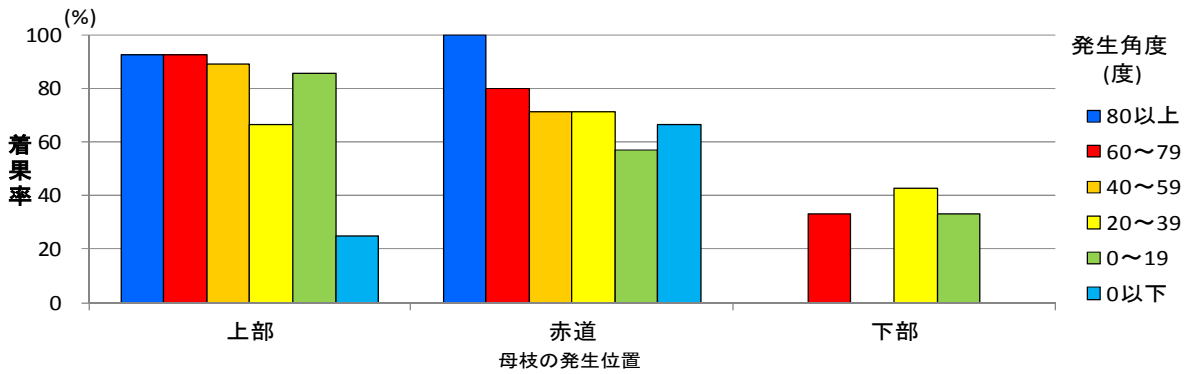


図1 結果母枝の発生角度別着果率

注1) 着果率 = 着果母枝数 / 調査母枝数 * 100

注2) 結果母枝の発生角度は水平を0度、垂直を90度とした

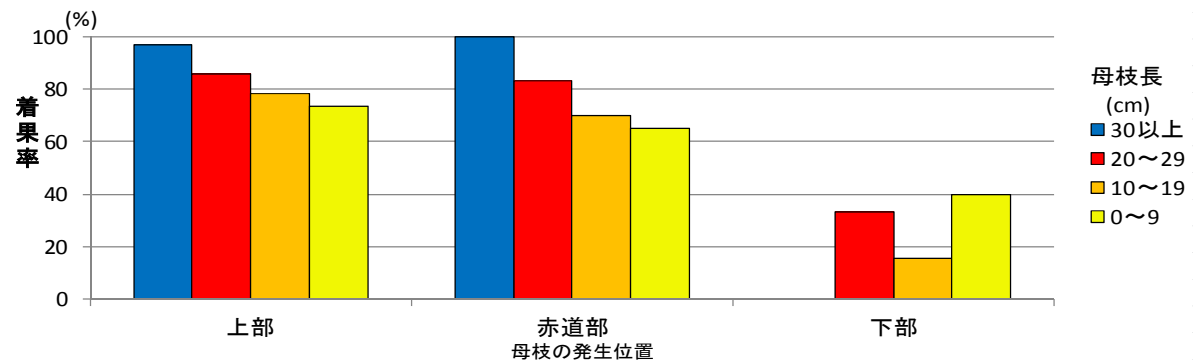


図2 結果母枝の長さ別着果率

注1) 着果率 = 着果母枝数 / 調査母枝数 * 100

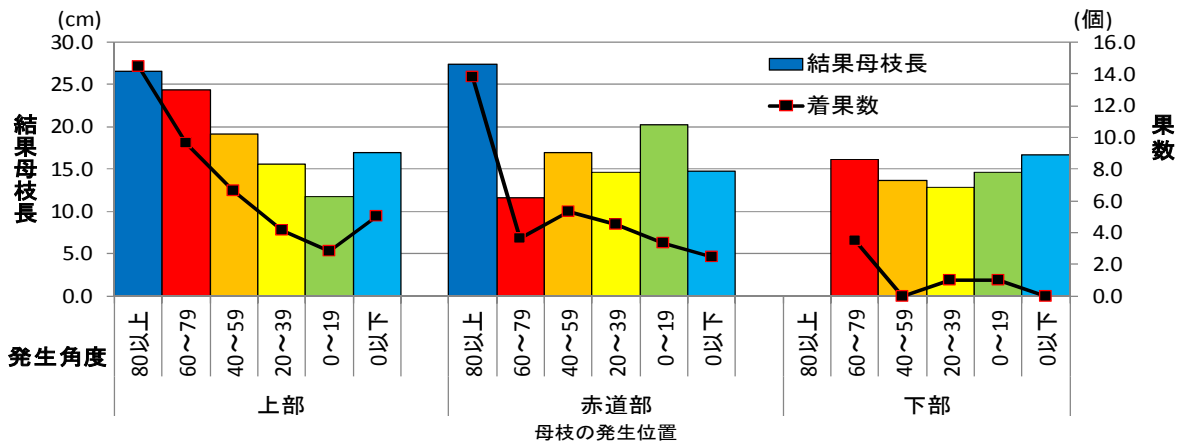


図3 結果母枝の発生部位および発生角度別の長さおよび着果数



写真1 レシイの樹姿



写真2 出蕾状況